

## 聖路加国際病院整形外科術前カンファレンスの進め方

運動器疾患を扱う整形外科において、「手術」は身体機能や QOL に直結するため、手術決定には合理性と合目的性の両方が求められる。治療選択において、患者は、「良質の医療を受ける権利」「選択の自由の権利」「自己決定の権利」(リスボン宣言 1,2,3) を有し、患者には治療を拒否する権利も保障されている。侵襲的な治療行為である手術の選択においても患者は拒否する権利は有しているが、手術適応においては患者の希望を優先して進めるものではなく、手術決定には説明可能な論理と根拠が必要となる。整形外科領域では古くは Dr. Arthur Steindler が“Orthopedic Operations: Indications, Technique and End Results” (JAMA, June 15, 1940)の中で手術適応について以下の 4 つの点を強調している。

*Four principles as guides in evaluating operative procedures;*

- 1. Is the operation rational from the physiologic and mechanical points of view?*
- 2. Does experimental evidence substantiate the expectations of regeneration and repair that are placed in the operation?*
- 3. Is the operative technic consistent with recognized experimental or empirical observations?*
- 4. Are reliable statistics available to justify the procedure, in view of the definite end results?*

手術の成功は技術面に大きく依存するのは事実だが、手術を行うにあたっては入念な準備が必須である。骨折などの外傷では術中に起こり得る問題に対応できる準備をして臨み、定型手術においても良好な臨床成績獲得のための手術計画（術式選択、アプローチ、インプラント選択、アライメント計画など）が重要である。

術前カンファレンスは、診療における最も重要な意思決定会議の一つであるとともに、教育的要素も多く含んでいる。上述の説明可能な論理と根拠を示すことで、整形外科の理解を深める機会となり、医療の質の維持と改善につながる。術前カンファレンスまでに、整形外科的評価、内科的評価を行い、手術実施可能な状態でカンファレンスに臨み、以下の点を重視し議論を進める。

### 1) 診断について

- 術前診断は妥当で根拠は明確か（医学的診断）
- 診断のために十分な検査が行われているか（疾患評価）

### 2) 治療法の選択について

- 医学的な手術適応はあるか（手術適応）
- 手術によって病態が制御できるか（手術の必要性）
- 患者の全身状態は手術に耐えられるか（全身状態評価）

### 3) 術式選択について

- どのような手術が適しているか（術式・手技選択）
- 手術を安全かつ正確に行える準備はしているか（手術計画）

手術日	2020/ /	入院日	2020/ /	執刀医	
ID		患者名			
<b>【プロフィール】</b> Patient Demographics 職業、スポーツ活動、特殊なライフスタイルなどを記載する。					
年齢	性別	男女	身長	cm	体重
					kg
仕事	その他(スポーツなど)				
<b>【主訴】</b> Chief Complaint 受診あるいは手術のきっかけとなった患者の症状(訴え)を端的に記載する。					
<b>【現病歴】</b> History of Present Illness 受診あるいは手術に至るまでの症状の経過、治療歴などを記載する。 いつから(〇年〇月頃より、〇年前より、など)、どのように(転倒、捻挫、交通事故など)主訴が始まり、どのような経過(他の医療機関の治療歴、症状の改善・増悪など)をとり、当科を受診したのか。					
<b>【既往歴】</b> Past Medical History 過去にかかった病気、治療中の病気について記載する。					
喘息 Asthma:	(+-)	糖尿病 DM:	(+-)	高血圧 HT:	(+-)
妊娠の可能性 Pregnancy:	( - )				
手術歴 Surgical History:					
<b>【常用薬】</b> Medications 日常的に使用している内服薬、注射薬を記載する。					
<b>【アレルギー歴】</b> Allergies 薬や食物などに対するアレルギーの既往について記載する。					
<b>【家族歴】</b> Family History 親族や同居家族に関する病気や健康状態を記載する。遺伝性疾患では重要である。					
<b>【身体所見】</b> Physical Examination 手術対象部位と影響を与える可能性のある運動器の所見を記載する。 一般的な所見(姿勢、歩容、アライメント、変形、圧痛、腫脹、水腫、ROM など)に加え、部位別の特殊手技による診察所見について記載する。					
<b>【検査所見】</b> ECG					
<b>【画像所見,評価】</b> MRI, CT, Radiographic Findings and Evaluations					
XP:					
CT:					
MRI:					
<b>【血液生化学所見】</b> Laboratory Test Findings					
<b>【臨床スコア】</b> Clinical Measure					
<b>【プロブレム】</b> Problem List 患者の病態の問題点を箇条書きにまとめて記載する。					
#1					#3
#2					#4
<b>【診断】</b> Diagnosis 上記から導き出された術前診断を病名として記載する。					
<b>【適応】</b> Indication for Surgical Procedure/Care 医学的な適応と手術の必要性について記載する。					
<b>【術式及びプラン】</b> Surgical Planning 術式選択と手術を安全かつ正確に行うための準備について記載する。 主たる手術に加え追加で行う可能性がある手術・手技について根拠とともに記載し、また複雑な外傷の手術などで術式変更が生じる可能性がある場合には準備すべき事とどのような場合に変更するかを記載する。					
<b>【退院予定日】</b> Discharge date / /					
<b>【特記】</b> Remarks					